

山脇学園中学校

2024年度 入学試験問題

国語 B

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は50分間です。
3. 問題は□～四までです。
4. 解答はすべて解答用紙に書きなさい。
5. 解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
6. 字数指定のある問いは、句読点・記号も一字として数えます。

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一般的に①バイアスというのは、偏りや思い込み、思い違い、特定の概念への固執など、人間の認知の歪みを幅広く指す言葉です。私たちが情報に接するとき、自分では正しい判断をしていると思っけていても、認知の歪みが働き、実際には正確ではないことがあります。

でも、人類の長い進化の過程で、なぜ正確な判断を妨げるような仕組みがなくならずに残ってきたのでしょうか。

私は、そこにこそバイアスの存在理由があるように思います。

A、人間が生き延びるためには、むしろバイアスが必要だったのではないかということです。

バイアスの存在理由を簡単に言ってしまうと、「②人間の脳の限界」です。

私たち人間の脳というのは、高速で正確な計算ができるわけではありません。たとえば、約1億2千万人の日本の全人口の考え方を計算して、一瞬で平均値や中央値、^{注1}標準偏差を出せるのであれば、それこそ今の日本人の普通や常識と言われるものがわかるかもしれません。

でも、それは不可能ですよね。残念ながら、今の人間の脳の性能には限界があつて、正確に「普通」を抽出することはできません。

ですから、もしも今より脳の性能を上げたいなら、もっと脳の体積を大きくするしかありませんが、そうなると骨盤の大きさに限界がありますから胎児を宿したお母さんの体は壊れてしまいます。

これ以上、脳を大きくできないならどうすればいいのかというと、現状の脳の大きさのまま、よりよい答えを出すための工夫をしなければならぬのです。

その工夫の一つが、バイアスなのかもしれません。粗い計算でいいから、瞬時に大まかな答えを出すという工夫です。

円周率であれば100桁まで暗記しなくても、「およそ3」でいいから余った計算のための^{注2}リソースを他のことに振り分けるとか、論理的な思考はスキップして脳にかかる負担を減らし、エネルギーを節約するなどです。

私たちの脳は、正確さよりも速度とエネルギー効率を重視した結果、バイアスというものが必要になったと考えられるのです。

B、鳥には群れて飛ぶものが多いですよね。空を見ていると、数羽、ときには数十羽、数百羽が群れをつくり、同じ速度で同じ方向に飛んでいることがあります。

不思議なことに、^{かれ}彼らは方向を変えるときも一斉にターンしているように見えます。③ いったいどうやって意思を伝え合っているのでしょうか？

コンピューターによって、鳥の生態から群れの形態を再現したものを「ボイドモデル (Void model) Voidは鳥のぼい」という「Bird-oid」から作られた造語」といいますが、その解析によると、鳥の群れには全体を把握して統帥をとっているリーダーのような存在はいません。鳥は、自分の周辺の数羽を認知しているだけで、群れ全体は認知していないと言われています。

人間も、この鳥の習性と似ているところがあります。

自分の周りに同じような人が3人もいれば、それがすべてだと思ひ込みやすい性質を持っているということです。

たとえば、クラスの中によく赤い服を着ている人が3人いて、その3人

がたまたま数学を得意としていたら、「数学が好きなのは皆、赤い服を着ている」と思い込んでしまう、といった性質です。

実際には3人では母集団の数が少なすぎて、赤い服と数学の成績の間に何らかの関連性があると考えられるには無理があります。

その他にも、よく「X」とか「大阪人はせっかち」などといった言い方をする人がいますよね。

このように、一部の人のある側面だけに当てはまることを、広く全体にも当てはまると決めつけてしまうことがあります。私たちは身近に同じような人が3人ほどいれば、それが真実だと思い込んでしまうような性質を持っているのです。

特に、自分と違う集団や共同体の人間については、ほとんど同じに見えてしまうことを「外集団バイアス」といいます。

もちろん東京にも親切な人もいますし、大阪にもものんびり屋さんはいらっしゃいます。それなのに、科学的な根拠も検討しないまま、よく知らない人たちに関してすべてひとくくりにしてしまおう。

※

ア人間の長い歴史を考えれば、そうしないと日々の食糧りょうにありつけずに死んでしまうこともあったはず。

イそれよりも、短時間でざっくり物事を判断する能力や、その場で一番声の大きい人に合わせる能力などの方が必要とされることが多く、時間をかけて正しい解を出すことよりも、限られたリソースや時間の中で、よりよい判断をすることの方が求められているのです。

ウなぜなら、私たち人間には、時間をかけて物事が正しいかどうかを検討する能力はそれほど強く求められていないからです。

その影響えいきょうなのか、私たち人間には、じっくり考える性質以上に、素早すばや

く決める性質の方が強くなっています。

もちろん人間にはじっくり考える性質もありますから、周囲の環境かんが落ち着いているときには時間をかけて深く洞察とうさつすることもありますが、一般的にはパッと判断して迅速じんに行動できる人の方が生きやすいのではないのでしょうか。正解ではないかもしれないけれども、よりよい方を素早く選ぶ能力が求められているのです。

「認知の歪み」などと言うと、何だかよくないことのように思う人もいるかもしれませんが、でも、限られたリソースの中でスピーディーに概要をつかむ力があるということは、生物の生態としては、かなり工夫されていると言えるのではないのでしょうか。

そして人間である限り、私たちが自分のバイアスから自由になるのは難しいことです。誰だれでも何らかのバイアスを持っていて、その影響なしに生きるのはほぼ不可能と言えるでしょう。

先ほども言いましたが、残念ながら人間は自分たちで思っているほど頭がよくありませんし、論理的でもありません。素早く、大まかに物事を判断しようとした結果、偏りやエラーを起こしてしまうのです。

こんなことを書くと、「そんなに人間は愚かな生き物だと言いたいのか」と思われるかもしれませんが、そうではなく、私たちの脳は常に正しい判断ができるわけではないということの日頃ごとから知っておいた方がいい、ということをお伝えしたいのです。

そうでなければ、実際には間違った選択たくをしているのに、一つも疑うことなく自信満々に突き進んでしまうことがあるからです。それは年齢れいを重ねた人やどんなに地位の高い人でも同じです。

あなたが他の誰かの言動を見て「この人の言っていることはおかしい。

バイアスがかかっている」と思ったとしても、④「あなた自身がバイアスにとらわれていない保証はどこにもない」ということです。

(表記を一部改めました)

【中野信子『バイアス社会』を生き延びる】
注1 標準偏差：データなどが平均値からどれくらい散らばっているかを表す指標。

注2 リソース：資源。資産。

問一 A・B に当てはまる言葉を、次のア～オからそれぞれ選びなさい。(同じ記号を二度使用しないこと)

ア しかし イ あるいは ウ ところで

エ なるほど オ つまり

問二 線①「バイアス」の例として当てはまらないものを、次のア～エから選びなさい。

ア 高齢者はコンピュータが苦手で最新の機器は使いこなせない。

イ 日本では十八歳は成人だが法律で飲酒喫煙を禁止されている。

ウ 銃の所持を許可することで犯罪を防ぎ治安はよくなる。

エ 料理や洗濯などの家事は男性よりも女性のほうが得意だ。

問三 線②「人間の脳の限界」とはどういうことですか。それを説明した次の文の 1・2 に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ十字以内でぬき出しなさい。

* 人間の脳は 1 をすることも、それを実行するために 2 ともできないということ。

問四 線③「いったいどうやって意思を伝え合っているのでしょうか」とありますが、その答えとして最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 群れを導く鳥が出す指示に従って、一羽一羽の鳥が自分の動く方向やタイミングを把握している。

イ 誰かに指示されているのではなく、たまたま全ての鳥が動いた方向がそろっていただけである。

ウ 先頭を飛ぶ鳥の動きをそれぞれが見て、その動きに従って自分たちも遅れないように飛んでいる。

エ 特に群れを導いている鳥はおらず、それぞれの鳥が自分で周りの鳥の動きを把握して動いている。

問五 本文の内容をふまえて、X に当てはまる言葉を、十字以内で答えなさい。

問六 ※の ア～ウ を正しい順に並びかえなさい。

問七 線④「あなた自身がどこにもない」とありますが、筆者はどのようなことを根拠としてこのように述べているのですか。本文中の言葉を用いて、五十字以内で答えなさい。

問八 筆者の主張として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 人間が生き延びるために生まれたバイアスを無くすることはできないため、自分もバイアスにとらわれていると認識することが大切である。

イ 人間の脳には限界があるため、できるだけ偏った考えを減らし、少しでも正しい判断が多くできるようにしていかなければならない。

ウ 間違った選択をしているのにバイアスのために気がつかないこともあるので、バイアスにとらわれないよう常に注意を払っておくべきだ。

エ バイアスは人間が生きていく上で役に立つこともあるため、そのメリットを理解し、よりよく素早い判断ができるようにするべきだ。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

中学一年生の「あたし（つばさ）」は、派手な見た目のせいで悪いうわさを立てられている友人「スー」と仲良くなったことをめぐって、幼なじみの小羽とけんかをした。スーとショッピングモールで遊んでいたときに小羽と出会った「あたし」は、スーと別れた後、小羽ともう一度話をしようとして決意する。次の場面は、「あたし」が小羽を近所の公園に呼び出したところである。

「ねえ、小羽。スーのことだけどさ」

「なんで、あの子と遊んでるの。注1 あんなひとが多いところで、しかも、化粧までして」

あたしの話を遮って、小羽が鋭い声色で言う。

「……スーは友だちだから。メイクも、あたしを元気づけるためにしてくれたの」

「メイクなんかでなんで元気になるのかわかんない。そんなの今までしたことなかったじゃん。あの子に無理矢理されたんでしょ」

小羽の中で、スーは完全に悪者になっているのがわかる。

「無理矢理じゃないよ」

派手で不真面目な子だと思われているだけで、小羽がこんなにスーをあたしから遠ざけようとするだろうか。

もしかしたら、あたしの知らないウワサがあるのかもしれない。いったいどんなウワサだったら小羽はこんなにスーを嫌うのかさっぱりわからない。

「あのさ、小羽」

「つばさの意味で、してもらったの？ その色を選んだの？」

「え？ 意味って言うか……なりゆき？ かなあ」

話しかけるとまた遮られ、とりあえず小羽の質問に答える。

メイクをしようと言いだしたのはスーだけれど、あたしも拒否しなかったし、青と答えたのもあたしだ。けれど、自分で選んだのかと言われると、それはどうなのか。

「無理矢理じゃん」

「あたしは、いやなら、断ってるよ」

「つばさに、似合っていないよ」

はつきりと、小羽が言う。

その瞬間、^① 恥ずかしさに襲われて顔が真っ赤になったのがわかった。さつきまで、まったく気にしていなかったのに。

今が夜ではなければ小羽にも見られていたことだろう。

前にも、こんなふう感じたことがあった。

ピアノの発表会のドレスだ。

——『女の子だからってピンクを勧められたの？』

——『お父さんもちゃんとつばさの意見を聞いたの？』

——『つばさは本当にそれがいいと思ったの？ つばさピンク好きじゃないでしょう』

お母さんの声がよみがえり、あの日のドレスが脳裏に浮かぶ。

あのあと、ドレスを交換することはしなかった。その理由は覚えていないけれど、発表会で、あたしはピンクのドレスを着てステージに立った。

あたしはずっと恥ずかしくて、すぐにでもドレスを脱ぎたくて、いやでいやでしかたなくて、はやく家に帰りたいかった。そのせいか、自分がどんな演奏をしたのか、まったく記憶にない。

あのドレスを選んだのは、あたしじゃない。でも、決めたのはあたしだった。だから、選んだものを否定されたような気持ちになった。

似合わないものを着た自分を、誰にも見られなくなかった。
みんなに笑われているような気がして、落ち着かなかった。

——あたしも、まわりを気にしてたんだ。

まわりなんてウワサなんてどうでもいいじゃん。

そう思っていることにウソはない。

でも、あたしもまわりを気にしていた。

好きなものがわからないのは、ひとつを選べないのは、それがまわりに
どう思われるかを気にしていたからだ。自分の意思で選んだものを否定
されたら、悲しくなるから、恥ずかしくなるから、選ぶのを避けていた。

選んでいるフリをしていた。

からっぽな自分を隠してウソを吐いていた。

個性なんかなにもないのに、似合うとまわりに言われる格好をしてご
まかしていた。

全部、全部ウソだった。そして、自分がウソを吐いている自覚すらな
かった。

② ウソを吐いていることを、自分にもまわりにも、隠していた。

——『化粧映えるね』

スーは鏡をあたしに向けて言った。あるとき、もしかしたらスーも似合
わないと思っていたのかな。そうかもしれないと思うだけで逃げ出した
くなる。

恥ずかしくて今すぐ顔を洗いたい。

けれど、スーはなにも言わなかった。ショッピングモールで話している
ときも、あたしには他の色も似合うと言ってってくれていたのを思い出す。

まわりからどう見えていたのかを考えると、落ち着かない。あるとき上
がったテンションが、急降下して、もう二度と這い上がれないような気持
ちになる。

楽しかった時間までもが、いやな思い出にかわってしまいそうになる。

いやだ、そんなのは、いやだな。

③ 奥歯を噛んで、ブランコのチェーンを握る手に力を込める。

「……似合ってなくても、いいの」

大丈夫だと自分に言い聞かせる。

「スーは、似合ってなかったら、そう言うはずだから、いいの」

「なんで……わたしじゃなくてそっちを信じるの」

小羽を信じていないわけじゃない。

ただ、スーを疑いたくないだけだ。

今日スーと笑って過ごした時間を、ウソにしたくないから。

何度も自分に言い聞かせながら、小羽をまっすぐに見つめる。

どうか、内心不安でいっぱいなことが伝わりませんように。

「似合ってないよ。つばさらしくない」

「小羽は、化粧をしてないあたししか見たことないから、違和感があるの
はしかたないと思う。スーは、前のあたしを知らないから、だからなん
でも勧めてくれるし、似合うって思ってくれるのかもしれない」

慣れだよ、と注風良くんは言っていた。それは、自分自身だけじゃな
くて、まわりも同じなんじゃないかな。

小羽は顔を歪ませてから、あたしから目をそらしてブランコを前後に
揺らした。キィ、と金属が擦れる音が響く。

「つばさ、あの子のウワサ本当に知らないの？」

やっぱり、ほかにもウワサがあったんだ。

④ 目を瞬かせると、小羽は「本当につばさはウワサに疎いね」と苦笑する。そして、

「あの子、小学校でいじめをしてたんだよ」と小羽が続きを口にした。(中略)

「べつにいいよ。あたしはスーを信じてる。そのウワサはウソだって、断言できる」

なにも知らずにいた自分が恥ずかしい。

でも、知らないからこそ、あたしは自分が接してきたスーを信じている。

「でも」

「だから、できたら、小羽にも違うって、信じてほしい。あたしの友だちを」

「わたしだってつばさの友だちでしょ！」

「……そうだよ。だから、風良くんやスーが小羽のことを知らないのにウワサで勝手なことを言い出したら、やめてって言う」

スーをわかってほしい、知ってほしい。

でも悔しそうに歯を食いしばっている小羽を見て、あたしたちはわかり合えないんだな、と気づいてしまった。

小羽の瞳に溜まった涙が、公園の街灯を反射させていた。

小羽があたしを心配してくれているのは、わかっている。ウワサを信じているとかいえないとかじゃない。ただ、あたしが誰かに悪く言われるかもしれないことを、いやだと思ってくれている。

あたしが、スーに対して思うのと、同じように。

——だから、いつまでもあたしたちの話は⑤ 平行線のままだ。

そのことに、たぶん小羽も気づいたのだろう。

小羽はそれ以上なにも言わず、ゆっくりと立ち上がって乗ってきた自転車に向かって歩き出した。そしてそのまま、あたしを振り返ることなく自転車でまたがって去っていった。(中略)

スーはなにも、悪くないのに。

勝手に誤解するひとたちのせいで、いやな気持ちになる。それをなんとかしようとしても、そのたびに小羽と同じようなことを誰かに言われたり、聞かされたりするんだろうか。

「なんだかなあ」

はあつと息を吐き出して、空を仰ぐ。

これまで、スーはどんな気持ちだったのだろう。

⑥ 注ウワサの話をしているときのスーは、一度もまわりを悪く言わなかった。笑ってネタにして、軽口を叩いて話を終わらせた。

⑥ 夜空に浮かんでいる月がぐにやりと形が歪んだ。涙で視界が弾けて、項垂れる。

——今日一日で、スーは何度、ウソを吐いたんだろう。

家に帰ると、玄関まで出迎えにきたお母さんが、あたしのメイクに驚いた顔を見せた。(中略)

洗面所からメイク落としを持って駆け寄ってきたお母さんが、ケースからシートを一枚引き抜いて手渡してきた。

「もう、なにしてんの、中学生でメイクなんて」

メイクなんて、か。

——『つばさに似合っていないよ』

小羽に言われたセリフを思い出すと、胸がまた苦しくなる。

「……似合っていない？」

「そういうことじゃないでしょ。まだはやいの。みんなもしてないでしょ」

みんな。

お母さんの言葉を心の中で繰り返した。

「みんなしてなかったら、あたしもしちゃダメなの？」

「なに言ってるの」

「みんながピンクを選んだからって、あたしもピンクを選ぶのは違うのに？」

意味がわからないだろうな、と思ってぼやくように呟く。

けれど、お母さんは「ドレスの話？」とすぐに気がついた。そばにいたお父さんも「かわいかったのになあ、あれ」と話に加わってくる。

弾かれたように顔を上げると、お母さんは気まずそうに明後日のほうを見つめていた。

お母さんもお父さんも、なんですぐにわかったの。

ポカンとしていると、お父さんがソファから身を乗り出して、リビングで佇むあたしを見つめてきた。

「あのとときわかりやすくつばさが落ち込んでた」

そ、そうだったかな。

でも、小羽に化粧が似合っていないと言われたときに真っ赤になったくらいだ。幼いあたしは今よりもっと感情を隠せなかったのだろう。

なにより、あの日のことは、今まで忘れられなかったことだから。

でも、お母さんやお父さんも同じように覚えていたとは思わなかった。

お母さんは「あれは、反省してるのよ！」と慌てているのか叫ぶ。手にしていたメイク落としを両手でもじもじと動かしている。

「別にピンクを選んだことに文句を言ったわけじゃないのよ。無理して

好きじゃないものを選んだんじゃないかって。つばさに似合ってたけど、もしかしたら女の子だからって理由だけでピンクをまわりが勧めたんじゃないかって思ってる」

お母さんはいつも、あたしの好きなものを聞いてきた。それに対して、あたしはいつも、適当に選んでいた。ピンクのドレスも同じようなものだったかもしれない。

どうしてもあれがいい、と思ったわけじゃない。でも。

「……無理は、してないよ。しないよ」

昔も今も。

小さな声で言うと、お母さんは「そう、そうよね」と注4 自嘲気味に笑った。

「つばさは、お母さんとは、違うもんね」

「どうして、無理してると思ったの」

「女だからピンク、男だからブルー、みたいなのはダメだって考えに囚われすぎて、自分がそうだったからって、つい、言い方を間違えたの」

お母さんは子どもの頃、親戚の人にいつもピンクのものをもらっていたらしく、それがとてもいやだったんだってさ、とお父さんが横から説明を補足してくれた。そういえば、以前お母さんは、『お母さんが小学生の頃は、ランドセルの色は女子は赤、男子は黒、が当たり前で、今みたいにたくさん色がなかった』と言っていた。

お母さんは、そんなふうにも決められることがいやだったのかな。だから、あたしには自由に選ばせようとしてくれていたのかもしれない。

「それに、親の気持ちを伝えたら余計な先入観を抱かせるかもしれないかって、勝手に心配をしたのよね。だから、かわいいとか似合うとかは……言えなくて」

お母さんはあたしのために言ってくれていたのか。

でも、あたしは、聞きたかった。ずっと。お母さんの気持ちを。

「お母さんは、つばさにかわいいとか似合うとか言いたいのを我慢してて、そのウソを、ずっと必死に隠してたんだよ。っていうか、ウソもひっくるめて、お母さんの気持ちだったんだよ」

お父さんが呆れたように言うとお母さんは「そ、そうだけど……！」と恥ずかしそうにしながらお父さんを睨んだ。

ウソを隠してたって、なにそれ。意味わかんない。

ウソもお母さんの気持ちって、よくわかんない。

そう思ったのに、不思議と「そっかあ」と声が漏れた。

「ずっと気にしてたのよね、その、ごめんね」

お母さんが眉を下げてあたしに頭を下げる。

ウソを吐いていたんじゃないじゃなくて、隠していた。そしてそれも、^⑦お母さんの気持ちだった。

そういう言い方も、考え方もあるんだな。

目に見える、聞こえるものだけで、相手を知ることが難しいのかもしれない。本音だけが、すべてじゃない。いろんなものがまじったものが、本当の気持ちかなのかな。

今初めて、お母さんの気持ちがわかったように。

(一部内容を省略しました)

【櫻いいよ『世界は』を秘めている】

注1 あんなひとが多いところ

：「あたし」がスーと遊んでいたシヨッピングモールのこと。

注2 凧良くん：「あたし」の小学校の同級生。

注3 ウワサの話をしているとき

：スーと「あたし」は、シヨッピングモールで遊んでいるとき、

スーが悪いウワサを立てられていることについて話していた。

注4 自嘲：自分自身をばかにすること。

問一 —— 線①「恥ずかしさに襲われて顔が真っ赤になった」とありま

すが、その理由として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア スーにしてもらったメイクをばかにされ、自分だけでなくスーまでも否定されたような気持ちになったから。

イ 初めてのメイクを似合わないと言われ、メイクで元気づけられたと勘違いをしていたことに気づかされたから。

ウ 自分が答えた色のメイクを似合わないと否定され、似合わないメイクをした顔を見られたくないと感じたから。

エ 無理矢理メイクをされたと指摘され、拒否せざるゆきでメイクをしてしまったことを後悔したから。

問二 —— 線②「ウソを吐いている」とはどういうことですか。本文中の言葉を用いて、五十字以内で説明しなさい。

問三 —— 線③「奥歯を噛んで、ブランコのチェーンを握る手に力を込める」とありますが、ここでのつばさの気持ちとして最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア スーを疑うことで、スーと過ごした楽しい思い出を台無しにしたくないという気持ち。

イ スーのことをよく知らないのに、小羽がスーを否定することが腹立たしいという気持ち。

ウ メイクが似合っているかどうかを気にしてばかりいる自分が情けないという気持ち。

エ メイクが似合わないと言われたが、小羽の意見は気にせず開き直ろうという気持ち。

問四 —— 線④「目を瞬かせる」とありますが、ここでのつばさの心情として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 落胆^{たん} イ 悲しみ ウ 拒絶 エ 戸惑い^{まど}

問五 —— 線⑤「平行線のまま」とはどういうことですか。それを説明した次の文の 1 2 に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ指定の字数でぬき出しなさい。

* つばさがスーに対して考えるのと同様に、小羽もつばさが 1 (二十字以内) が許せず、スーに対する思いを 2 (十字以内) こと。

問六 —— 線⑥「夜空に、形が歪んだ」とありますが、このときのつばさの気持ちとして最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 自分を理解してくれると信じていた親友の小羽が、一切話を聞き入れずに帰ってしまったことに対して、悲しく思う気持ち。

イ 悪いウワサを立てられても周りを悪く言わないスーを思うと、スーが理解されないことに納得^{なつ}がいかず、やりきれない気持ち。

ウ 事実かどうかわからないウワサを信じ切って、小羽や周りの人たちがスーを毛嫌いすることが理解できず、不思議に思う気持ちを。

エ 今後スーを誤解する人たちに対して、小羽にしたような説明を何度もしなければいけないことに、うんざりする気持ち。

問七 —— 線⑦「お母さんの気持ち」を説明した次の文の に当てはまる言葉を、二十五字以内で答えなさい。

* 自分の気持ちを隠すことで、 という気持ち。

問八 本文の内容の説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア つばさは、周りの目が気になってピアノの発表会で納得のいく演奏ができなかったことを、後悔し続けていた。

イ 公園で一人になったつばさは、スーがうそをついているのではないかと疑い始め、スーに対して不信感を抱いた。

ウ 幼い頃にピアノの発表会のために選んだドレスのことを、両親がずっと覚えていたと知って、つばさは驚いた。

エ お母さんが伝えなかった気持ちを知ったつばさは、隠されているものこそが本当の気持ちであると気づいた。

③ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

インフォームドコンセントという言葉を知っていますか。「A」を受けた上での「B」という意味で、主に医療現場における重要な考え方を示す言葉です。たとえば、あなたが患者で、病院で治療を受ける場合を考えてみましょう。医師は治療を行う前に、具体的な治療の内容や、それによって生じる「a フクサヨウ」などのリスク、治療にかかる費用、他にどんな治療法があるかなどについての説明を行います。その上で、患者であるあなたがその治療法を受けることに同意して初めて治療が行われます。

①なぜ、このような手続きが必要なのでしょう。右に挙げたような説明がないまま治療を受けた場合を考えてみましょう。治療の結果、その病気が治ったものの、身体に別の不具合が生じる場合もあるかも知れません。あるいは治療後に高額な治療費を請求されるかも知れません。「どうして前もって教えてくれなかったのか」「こんなことになる」と知っていたらこの治療を受けなかった」と患者が病院を訴えるケースに「b ハッテン」することもあります。事前の説明は、こうしたトラブルを未然に防ぐことにつながります。もう一つの理由は、患者の権利に関わるものです。私たちは自分のことを自分の意志で決める権利を持っています。たとえ医師にとって最善と思われる治療法であったとしても、患者の同意無しに一方的に強制されるとしたら、それは患者の権利の侵害につながります。最終的に治療をどうするかを患者に「c ユダネ」することで、治療によってどのような結果がもたらされるとしても、患者自身が納得できるようにすることも、インフォームドコンセントの大切な役割です。

その一方で、②患者の状況によっては、医師が治療法について事前に患者の同意を得ることが難しい場合もあります。そのような場合の適切な対応については専門家の間でも意見の分かれるところではあります。

問一 線 a・c のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 線「れる」と同じ働きのものを、次のア～エから選びなさい。

ア 社長は冬休みにご家族とスキーに行かれるそう。

イ 運動会は予定通りに今週の日曜日に行われる。

ウ 写真を見ると昔のことがなつかしく思い出される。

エ 彼女はその作品が世界中で読まれる有名な作家だ。

問三 「A」・「B」に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ漢字二字でぬき出しなさい。

問四 線①「なぜ、このような手続きが必要なのでしょうか」とありますが、この問いに対する答えを二つ、「くため。」に続くように、それぞれ十字以内で答えなさい。

問五 本文の説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 医療の在り方について、専門家の意見をふまえて批判している。

イ 医療現場で用いられる考え方について、客観的に説明している。

ウ 医療の問題について、読者が自分自身で考えるよう促している。

エ 医療現場における問題を指摘し、その解決方法を提案している。

問六 線②「患者の状況によっては、場合もあります」とありますが、そのような場合の具体例を自分で考えて、次の(1)・(2)の条件を満たすように説明しなさい。

(1) 「患者の状況」が分かるように書くこと。

(2) 「医師が治療法について事前に患者の同意を得ることが難しい」理由が分かるように書くこと。

四

次の各問いに答えなさい。

問一 次の1～5の——線が、反対の意味の漢字どうしを組み合わせ
た熟語になるように、□に当てはまる漢字を答えなさい。

- 1 その土地の領主と主□関係を結ぶ。
- 2 さまざまな国の興□の歴史を学ぶ。
- 3 仕事では□私を区別する必要がある。
- 4 旅行に持っていく本の□捨に迷う。
- 5 名□ともに日本一の学者になる。

問二 次の1～5の（ ）内が「 」内の意味になるように、□に

ひらがなを補って言葉を完成させなさい。

(例) かわいい犬の動画を見て気持ち(な□□)。「落ち着く」

↓なごむ

- 1 彼は日本の将来を(に□□)人材だ。「背負う」
- 2 新しい洋服を買って欲しいと親に(せ□□)。「無理に要求する」
- 3 街の中心に大きな家を(か□□□)。「ととのえて作る」
- 4 うっかり失言をして彼の機嫌を(そ□□□)。「悪くする」
- 5 他人への礼節を(わ□□□□)ことが大切だ。「十分に心得る」